

8-4-10 河川構造物専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 河川構造物専門委員会の開催

委員会開催回数：9回

技術委員会をはじめ各委員会からの報告・連絡、及び、河川構造物専門委員会での取り組み内容について、検討・審議を行った。コロナ禍の状況を考慮して、Teams による WEB 会議と対面会議を組み合わせて実施

(2) 令和 4 年度 若手技術者を対象とした河川砂防技術基準[設計編]の改定に伴う講習会の企画・実施

河川構造物専門委員会では、令和元年度並びに令和 3 年度に「河川構造物の耐震性能照査指針」や「河川砂防技術基準設計編」の改定に伴う講習会を実施してきた。河川砂防技術基準については引き続き改定作業が進められており、今後数年をかけて全面改定が完了する予定である。このように河川構造物の設計は過渡期となっており、改定後の基準をどのように業務に適用・解釈するか、その都度、判断しながら運用している状況である。特に、若手技術者においては、旧基準と新基準の違いや改定の経緯等が十分理解できていないことが多いため、悩みながら業務に従事していることが想定されており、若手技術者の技術力向上を目的として表記の講習会を実施した。実施後のアンケートでは 80% 以上の方が満足と回答し次回の開催希望も多く、成功したイベントと評価できる。

(3) 詳細設計照査要領（堰）の改定

当委員会では過年度、国土交通省では作成していない堰の詳細設計照査要領を作成し協会各社で活用してもらっていた。一方、国土交通省の要領については、様式や内容が改定されているものの、堰の要領については最新のものに対応できていない状況であった。以上の事項を踏まえ、様式を国土交通省版に合わせるとともに、最新の基準等も踏まえた改定版を作成した。

改定版については協会のホームページにアッ

プするとともに、品質セミナーや(2)に記載した講習会でも説明するなど、業務の品質確保に向けて活用できるよう周知した。

(4) 照査特別 WG への参画、品質セミナー講師派遣

照査特別 WG へ委員を派遣し、設計ミス防止のための「品質セミナー」に向けて、河川構造物の設計におけるエラー事例の収集と、エラー事例を基にしたテキスト、セミナー用 PPT を作成した。また、今年のセミナーは、ビデオ配信による実施となったため、撮影時の講師を 1 名派遣した。

(5) 全国建設研修センターへの講師派遣

(一財) 全国建設研修センターで開催される「河川構造物設計研修」に対して、平成 21 年度より共催で取り組み、河川構造物の特徴・設計の考え方、基礎工設計・演習、擁壁の構造設計手法、樋門の設計・演習に関する 4 日間の研修に対してテキストを作成し講師を 3 名派遣した。

(6) その他

主な活動を以下に示す。

- a) 対外活動委員会 WG(水機構)への参画
- b) 維持管理対策 WG への参画
- c) 業務研究発表会 WG への参画
- d) RCCM 自主学习教材改定作業

2. 次年度の活動について

- ・照査特別 WG への参画、品質セミナーテキスト作成と講師の派遣
- ・「河川構造物設計研修」講師派遣
- ・RCCM 教材の改訂作業への参画（継続）
- ・各種委員会（CIM 関連等）への参画
- ・河川構造物の技術に関するセミナー
- ・詳細設計照査要領の改訂版作成
- ・災害発生時は、災害対応とその活動報告

(河川構造物専門委員会委員長 伊藤 豊)